

## スコットランドとは

スコットランドは、英国（United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland）を構成する4つの地域のひとつです。かつては「スコットランド王国」として独立したひとつの国でしたが、1707年にスコットランド王国とイングランド王国が合併し「グレートブリテン連合王国」が成立。1801年にアイルランド王国が加わり「グレートブリテン及びアイルランド連合王国」と改称しました。スコットランドの人口は約530万人（英国全体の約8.4%）、面積は約7.8万平方キロメートル（英国全体の約1/3）と、どちらも北海道とほぼ同じ規模です。政治の中心地エディンバラは、京都府と友好都市関係を締結しています。毎年8月から9月にかけて開催される芸術の祭典「エディンバラ国際フェスティバル」には、世界中から多くの観光客が訪れます。



## 身近にある“スコットランド”

実は私たちの周りには、様々な「メイド・イン・スコットランド」が溢れています。NHK朝の連続テレビ小説「マッサン」に登場する「スコッチウイスキー」は、その代表格と言えるでしょう。他にも例えば、日本の制服などにも用いられる「タータン柄」は、スコットランドの伝統的なチェック柄であり、卒業式などで歌われる「蛍の光」は、もともとはスコットランド民謡です。ゴルフやカーリングなど、人気スポーツの発祥の地としても有名で、特にセント・アンドリュースのゴルフクラブは、世界中のゴルファーが一度は訪れたいと願う、ゴルフの聖地として知られています。また「経済学の父」アダム・スミスをはじめ、小説「シャーロック・ホームズ」の作者コナン・ドイル、小説「宝島」の作者ロバート・ルイス・スティーヴンソン、電話を発明したグレーム・ベル、ペニシリンを発明したアレクサンダー・フレミングなど、歴史上著名な人物を多数輩出しています。



スコットランドの田園風景



タータン柄を記したスコットランドの民族衣装



スコッチウイスキー

出典：外務省ホームページ (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol120/index.html>)

## ナガサキタータン

### Scottish Rugby Union(City of Nagasaki)

「ナガサキタータン」とは、スコットランドラグビー協会が長崎市との友好のためにデザインし、2016年11月に長崎市に贈られたものです。

このタータン柄は、Scottish Register of Tartans（スコットランド・タータン登記所：SRT）に「Scottish Rugby Union(City of Nagasaki）」として正式に登録されています。

また、長崎との友好の証としてラグビーワールドカップ2019日本大会に出場したスコットランド代表のジャージの襟にあしらわれていました。



【色・柄の持つ意味】

〔緑〕長崎県ラグビー協会のユニフォームカラー〔紫〕長崎市のアジサイとスコットランドラグビー協会のアザミのカラー



長崎スコットランド交流塾



世界遺産 エディンバラ城

# 長崎スコットランド交流塾

## スコットランドとの交流を長崎の街の魅力へ

長崎スコットランド交流塾 塾長 高比良則安

長崎とスコットランドの交流の歴史は、グラバー邸（グラバー園内）のトーマス・グラバーからはじまり、産業や学術、スポーツなどその交流は、現在に至るまで連綿と続いています。

長崎とスコットランドとの交流を、市民の人に広く知っていただき、さらに交流の幅を広げることは、長崎のまちづくりに何らかの貢献ができるのではないかと思います、長崎スコットランド交流塾を提案しました。

ラグビーW杯2019日本大会でスコットランド代表チームのキャンプが、長崎市に決定したのも、長崎とスコットランドの交流の歴史が要因の一つとなりました。

長崎キャンプの際も、スコットランド代表チームは、積極的に市民と交流を図っていただき遠いスコットランドが身近な国（地域）として市民の心に刻まれました。

ラグビーW杯での市民の盛り上がりや交流のレガシーとして、スポーツだけで終わるのではなく、産業や学術など、幅広い分野でのネットワークへ広げたいとの思いに至りました。

長崎とスコットランドの交流を長崎の街の魅力に定着できないかと活動を始めました。



ラグビー・スコットランド代表のレイドロー選手と塾生



長崎スコットランド交流塾



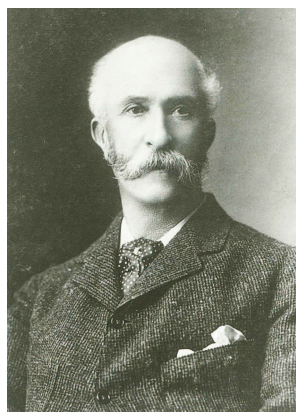
## 【スコットランドと長崎の縁】

安政6年(1859年)に長崎を訪れた、トーマス・ブレイク・グラバー。長崎では「グラバーさん」と呼ばれ親しまれていますが、出身はスコットランドのアバディーンです。

グラバー氏は、1861年に長崎でグラバー商会を設立し、幕府や各藩に武器や船舶などを販売しました。

そして、25歳で有名なグラバー住宅を建て、長州藩や薩摩藩などの藩士たちと交流を深め、若い藩士たちが海外に渡航する手助けをしました。その藩士たちが西洋の進んだ制度や技術を学んで帰り、日本の政治・経済界を担っていくことになりました。

その後、グラバー商会は倒産しますが、岩崎彌太郎の三菱財閥の顧問として活躍、73才で亡くなり、家族とともに長崎市内の坂本国際墓地に眠っています。



トーマス・グラバー



小菅修船場跡



高島炭坑 北溪井坑跡



旧グラバー住宅



グラバーの実家、アバディーン市

## 「小菅修船場跡」

1869年、薩摩藩とグラバーによって建設された船舶修理施設です。日本で初めて蒸気機関を動力とする曳揚げ装置が導入されました。船架の形状から「ソロバンドック」の名で親しまれています。また曳揚げ小屋は現存する日本最古の本格的な煉瓦造建築です。

## 「高島炭坑 北溪井坑跡」

1868年4月、グラバー商会と佐賀藩の合弁事業として、高島炭坑開発が共同経営で開始されました。

その後、英国人技師を招き、日本最初の蒸気機関による竖坑(たてこう)が開坑されました。ヨーロッパから最新の技術と機械が導入された北溪井坑は、深さ約43メートル、日産300トンを出炭したといわれ、日本における初期の近代的炭坑施設として高い価値があります。

グラバー氏は1865年に長崎の人達を驚かす事を行います。現在のみなとメディカルセンター前に線路を敷き、英国製機関車「アイアン・デューク号」を走らせました。これが日本初の鉄道運転となります。(初の開業は1872年の横浜・新橋間)

また、グラバー氏は、キリンビールの前身会社、ジャパン・ブルワリ・カンパニーの創始者でもあります。

## 【グラバー氏がつないだ長崎とスコットランド】

このように日本の近代化に多大な貢献をしたグラバー氏が幼少期を過ごした、スコットランド北西部の「アバディーン市」と長崎市は、歴史的なつながりがあり、両市のロータリークラブが1996年(平成8年)よりトーマス・B・グラバー奨学生相互派遣を行うなど市民が主体となった交流が行われていることから、長崎市から市民友好都市の提案を行い、2010年に提携し、現在も交流が続いています。

## 【塾の研究・活動内容】

6月15日(水)の塾生会議で、今年1年の塾の運営方針を協議しました。原則、毎月1回の塾生会の開催し、ラグビー・スコットランド代表のレイドロー選手を長崎に招待してのトークイベントの開催、スコットランドの交流をテーマとした講座の開催などを決定しました。

(詳細は会場パネル参照)

7月27日(水)の塾生会議では、塾生の太田伸二さん(長崎県ラグビーフットボール協会理事)による「スコットランド・ラグビーと長崎」をテーマに、いかにして、長崎誘致が成功したのか、を太田さんの実際の体験をもとに話していただきました。

(写真①: 詳細は会場パネル参照)

8月6日(土)の塾生会議では、グラバー園内の旧スタイル記念学校を会場に移して、グラバー園の名誉園長のブライアン・バーフガフニさんに講話をしていただきました。長崎に眠るスコットランド人たちの活躍を聞くと、遠い昔が思い出させるような気がしました。

(写真②: 詳細は会場パネル参照)

9月10日(土)の塾生会議では、スコットランドの大学をはじめ英国の大学と交流を深めておられる長崎大学副学長の山本郁夫教授に「ロボットシステム研究と英国スコットランド大学との関わり」をテーマに興味深い話を聞きました。山本教授の水中ロボット研究から、長崎市が進むべき未来像が見えてきたような感じがしました。

(写真③: 詳細は会場パネル参照)

その後、レイドロー選手の来崎日程が具体化して、塾の活動はその受入れのために協議を重ねました。

10月5日(水)、10月12日(水)、11月2日(水)と塾生会議を続けて、役割分担などを行い、当日に突入しました。

11月17日(木)のトークイベント当日は、出島メッセ長崎の会場にどの程度参加していただけるのかと心配しましたが、何と150人近くの方にご参加いただくことができました。ご参加いただいた方から、「トークの内容も良く、感動した!」「とても良かった!」などの声も寄せられて、遠くは埼玉県や神奈川県、福岡県からもご参加いただいた。(詳細は会場パネル参照)

12月7日(水)の塾生会議から、令和4年度の長崎伝習所まつりへの参加について、協議を重ねることになり、長崎スコットランド交流塾としての取り組み内容が少しずつ決まっていっていった。

1月18日(水)と2月19日(日)の塾生会議は、長崎伝習所まつりに向けた作業分担などを決めました。

2月19日(日)には、塾生からの提案で「ワイワイガヤガヤで作業をしたい。」として、グラバー園の旧スタイル記念学校で半日かけての作業を実施しました。



写真①



写真②



写真③

## 【塾活動の大きな成果】

長崎スコットランド交流塾の大きな成果は、ラグビー・スコットランド代表のレイドロー選手(元キャプテン)を長崎へ招待することができて、トークイベントに多くの方に参加していただき、しかも、その内容も十分満足できるものでした。



グラバーパイプバンドによる歓迎演奏、レイドロー選手に「感謝状」と「塾生からのメッセージ」を贈呈



レイドロー選手を囲んで記念撮影